

山行番 No. 1644

日時 2015. 05. 23 (土・晴れ)

山域 天城・猿山 (1000m)

コース 下土狩6:00—修善寺—天城峠—河津七滝—萩ノ入川ゲート発7:37—東尾根取付8:10—788m峰8:50—鉢巻道—猿山9:52—小僧山方面—猿山下10:45～11:45 (昼食)—鉢巻道—戻る—東尾根—ゲート14:23—温泉会館

標高差 上り 萩ノ入川ゲート約330～猿山1000m＝約670m
下り //

参加者 L 後藤、秋山・沖・浜道・峰田・伊藤＝6名

今日の山行の目的地は一般的には余り知られていない天城の猿山 (標高ぴったし1000m)。「天城の石楠花を愛でる」をテーマに朝からすっきりと晴れ楽しく登れそう。ということで後藤リーダーの愛車で一路河津七滝の駐車場へ。ここでトイレを済ませ大滝温泉に入ったところで帰りの温泉を探しておこうと日帰り温泉の幟のある旅館数軒に聞くと朝早いため分からないとか宿泊客が多く休憩所が利用できないとかで結局帰りにまた探すことにした。

萩ノ入川沿い林道ゲートの駐車スペースに車を止め、行程や山行への注意 (必ず地図は各自持参せよ。夏山参加する人は普段の荷物を重くするなど体力向上を図ることなど) をリーダーから聞いた後、いざ出発。見ると伊藤さんの靴がピカピカ。夏山山行に備えて新調したとか。アイゼンも揃えたようである。

ほぼ予定通りの時間にゲートを越え出発。約20分の橋 (黄金橋) 上で地図読み学習し現在地を確認。地図には小さい橋は表示がなく分かりづらい。川を越えている所なのですぐ分かるはずなのに。それから約10分歩きいよいよ東尾根に。ここからの登山道は2万5千分の1の地図には表示がない。なだらかな林の中の山道だが段々と急になり木々が増えリーダーが斧で小枝を払いながら788mピークを目差す。日差しは木々で遮られ強くないが風もなく暑くなってきた。

740m付近のところで休憩、現在地を地図で確認し右方向に進む。いよいよ地図が頼り、と言っても私にはさっぱり分からない。成程と頷くばかりだ。788mピークまで約1.5時間掛かった。それまでに1本の石楠花があったが時期を逸したか、早かったのか花は全く見えず。

788mピークから下がった所で道が左右に分岐しどっちだと迷ったが左に結構高い山が見え、付近に他には高い山がないことからそれが猿山と推測でき、地図で確認し左にルートを取り鉢巻道へ。平坦に近い鉢巻道から一転落葉で滑り易い急な登り坂を上ると立派なブナの木が沢山あるところに出てなだらかになったと思ったら猿山山頂であった。

歩き始めてから2時間強の10時前。猿山山頂には申し訳程度の表示があるだけであった。地図上にも「猿山」とちゃんと標記されておりもう少し立派な標識があるかと思ったが意外であった。また、初めてのことであったが1000mの山頂でなぜかやたらと蠅が多い。ここで昼食を摂るのかと思うとうんざり。

ここから今日のテーマ「天城の石楠花」を堪能すべく小僧山方面に足を延ばす。入口が分かりにくかったので赤テープで目印。今までと違いはっきりしたいい道だ。少し歩くとありました。石楠花。木が大きく上向きに咲いているので見落としそう。やはり少し遅かったようだがよく見るとあちこちにきれいに咲いている。中に今まで見たことがない真っ白な石楠花がありリーダーもこんな



大ブナ



猿山頂上



白シャクナゲ



赤シャクナゲ

に白いのは初めてのようだ。数は少なかったが写真を撮ったり石楠花を愛でる。

20分位散策したところで猿山に引き返す。山頂から少し下った多少広い所で相変わらず蠅が飛ぶなかで昼食を摂った。リーダー自作のソラマメをおいしく頂いた。時間も残り30分昼寝、蠅は少なくなったがぶんぶん飛ぶ中でいびきをかいて寝ていた人がいた。結局11時45分まで昼寝。先を急ぐリーダーにしては珍しい。

下山は西南の緩やかな傾斜を下り鉢巻道をぐるっと回り萩ノ入川の上流に出るコースを予定。相変わらず鉢巻道までの下りは地図に表示はない。夏山に行く伊藤さんの荷物が軽すぎ訓練にならないとのリーダーの指示で浜道さんのザックと取り換えて出発。30分位歩いた所で山葵田が道の下の方に表れた。放棄された山葵田なのか段々の上の方の何枚かの田はきれいだが下の方の田は埋まったままのようだ。川がない所で山の中腹から水が湧きだしている所に作られたようだが、そこまで行くのが大変そうである。

午前中に通った788mピークから下った所の分岐点に出て今度はそのまま鉢巻道を北に向かう。鉢巻道は急斜面をトラバースしているので高低差は殆どないが斜面にへばりついて狭くすべりそう。リーダーはこの先に難所がありこのまま進むか考えていた。北に向かって10分位歩いた所で後ろのペースが落ちた。伊藤さんが足をひねったとのことで治療。幸い峰田さんが冷却スプレーを持っており湿布し少し楽になったようだ。大事に至らなくてよかった。

この先は788mピークから朝登ったルートを下った方が安全・早いと判断し引き返すことにした。伊藤さんのザックはリーダーが背負う。流石リーダー。分岐点に戻り788mピークに登り一路下山。下りになると斜面は落葉で滑りやすい。鉢巻道では少し風が吹き涼しかったが風が止んで下りにも関わらず暑かった。登りの時には殆ど足元しか見ず上に上にと登っていたので気が付かなかったが、下りながら見ると少し広い所ではこれが登山道だと定かではなく、どの方向にも道があるような所で秋山さんと「この山は絶対一人で来る山ではないな」と話しながらの下山でした。

下山では色々な所に目をやる余裕があるのか登りでは目にしなかったギンリョウソウ？のまっ白な姿を結構な数で見られた。東尾根の入口には14時前に、林道を下って当初の予定通りの14時25分ころゲートに着いた。振り返って見るとこの時期の八丁池・万三郎岳などは結構混雑していると思うが今日の猿山山行では、一人も出会わなかった。

帰りに再び大滝温泉で日帰り温泉を聞いてみたが、土曜日ということで思ったより宿泊客が多いらしい。デッカイツアーバスが止まっている旅館もあった。この辺は日帰りと言えども1000円はするし、この混雑で休憩所も怪しい。大滝温泉がこんなに混んでいるとは認識不足でした。結局は定番「湯の国会館」(860円)で寛いだ。自動販売機で入館券を購入したが、入浴後JAF割引は聞くかとリーダーが聞くと1割引だとのこと。後からでも割引し御一行様何人でもOKとのこと。早速6名分516円返却してくれた(6名に各々返却する方が大変)。

帰りは浜道さんの運転。136号線が混んでおり裏道の県道に回り修善寺道路ー伊豆中央道を通ったが土曜日の夕方ということでここでも結構混んでいた。それから浜道さんが何時も使っている伊豆縦貫道に入ったがしばらく走ると信号も交差点もないのに物凄い渋滞。聞けばこの先の上り坂でスピードが落ちる自然渋滞とか。熱函道路からの車が入る大場ICで渋滞に拍車がかかる。そのままゆっくり進むと確かに坂道が終わる玉澤IC過ぎで急に渋滞が解消。教訓=ドライブは行楽の時季・通行する時間を考えて道を選ぼう。

今日の山行の本当の教訓=今日のコースは地図に表示がないルートが殆どで、地図を見ても自分が今何処にいるのか分からない時は楽しさ半減でした。リーダーさまさまでしたが、地図が読めれば楽しさ倍増は確実に地図読みが出来るよう訓練の必要性を痛切に感じた。皆様お疲れ様でした。



記念写真



経験歩荷

黄金橋

